

## 「世界のロータリー」

2012-2013年度国際ロータリー会長  
田中 作次（八潮RC）



世界の環境変化と共に、クラブもその時代に合わせて変化させることが重要です。どのような変化を取り入れるべきかについては、主体性を持つ其々のクラブが理事会を通して検討する必要があります。例えば年会費が高すぎないか、魅力あるプログラムが提供されているか、意義ある奉仕活動を行っているかなど、新しい会員が入会した時に、彼らの考えを聞いてみるのも一つの方法です。

また「ロータリーに関心を持ったのはなぜか」、「クラブが取り組める地域社会のニーズは何か」「ロータリーで何をしたいか」、など、新会員の声に耳を傾けることで、これまでに見えなかった新しいアイデアが浮かぶかもしれません。

また、国際ロータリーの長期計画を参考に、クラブの3か年長期計画を立てておられると存じます。ロータリーは常に目標を立て、それを目指して活動します。生きている、ありとあらゆるものが成長するように、組織も成長しなければ存続できません。長い歴史を持つロータリー・クラブの皆さまは、このことをよくご存知の事と思います。それぞれのクラブは設立された時と全く同じ姿ではないでしょう。

幾世代にもわたり、前の世代が去り、次の世代の新しい会員が入会します。毎年役員が交代し、時々には以前とは異なったプロジェクトが行われます。しかし、重要なことは、そこに常にロータリー・クラブがあるということです。表層が様々に変化しても、ロータリーの中核、つまり奉仕への献身は変わりません。その意味ではクラブはいつの時代も同じクラブです。クラブのお陰で、皆様の地域は以前よりも良い地域社会になりました。そして、これからも末永く、皆様のクラブと共に、この地域で人々が助け合い支え合って、発展していくことでしょう。

ロータリー・クラブのある地域社会は、クラブのない地域よりも必ず良い場所になると私は信じています。ロータリーがある地域社会の人々の人生は、もっと豊かなものになると思います。ロータリーが大きくなれば、それだけ強くなりますが、ただし、会員数を増やすことだけを目的に新会員を入れても、ロータリーは強くなりません。ただクラブに入会するのではなく、真のロータリアンとなれる人を迎え入れ、クラブでしっかりと指導してこそ、ロータリーは強くなれると思います。

私が八潮ロータリー・クラブに入会した日は、新しい人生を歩み始める第一歩となりました。人々とのつながり、奉仕を通じた満足感や達成感、そして平和を、それまでよりも深く感じるようになりました。私は、この気持ちを多くの人に伝えていきたいと考えておりますが、その方法の一つが、ロータリーへの入会をお誘いすることだと考えています。

入会見込者に伝えなければならないのは、ロータリーが素晴らしい団体であるということ、そしてロータリーへの入会によって、彼らの人生がより幸せになるということです。ここにいる私たち全員が、会員であることの素晴らしさを知っており、ロータリーを愛しています。私たちがロータリーで見つけた幸せを、多くの人々に知っていただきたいと思います。

今から約41年前の1975年にロータリーへ入会した当初、それから私の人生が全く違った方向に向かっていくとは、思ってもみませんでした。ロータリーのお蔭で私の今日があり、私の生きる目的が明確になりました。それは他者や社会の為のために自分のできる範囲に於いて、少しでもお役に立ち地域社会そして世界平和のためになれることです。

私たちを取り巻く環境の変化は時代と共にすさまじいものがあると同様に、ロータリー・クラブもその時代に合うように変化させることが重要です。これには、年会費の妥当性や例会出席の見直しも含まれます。例えば、若い世代の会員にも合うような年会費の額、朝、昼、夕方などの例会時間の再検討、家庭の主婦を含めた女性会員の増加、例会プログラムの再検討、あらゆる奉仕活動の見直しも含まれます。

ロータリーでは、常に目標を立て、それを目指して活動しています。生きている、ありとあらゆるものが成長するように、組織も成長しなければ存続できません。固有の歴史と伝統を持つクラブの皆さまは、このことをよくご

存知ではないでしょうか。各クラブが設立された時と現在ではまったく同じ姿ではないでしょう。幾世代にもわたり、前の世代が去り、次の世代の会員が入会します。そして毎年、役員が交代し、年によっては違う新しいプロジェクトが実施されます。

さて青少年奉仕は、ロータリーで最も新しい五つ目の奉仕部門です。長期的な影響を生み、今の人々だけでなく、後世のために何かを残そうというロータリーの思いが、青少年奉仕に反映されています。青少年奉仕は、青少年とその家族、そして未来の世代のための、すべての奉仕を含んでいます。

識字率向上、職業訓練、母親のための保健プログラム、子どもたちの栄養強化といった活動から、ローターアクト、インターアクト、ロータリー青少年交換などのプログラムに至るまで、ロータリーでは、若者たちがベストの状態で人生の第一歩を踏み出せるよう支援しています。

一例として、現在、ナイジェリアでは、18人に1人の女性が、出産によって命を落としています。ロータリーは、母親の保健のための取り組みを通じて、このような悲惨な状況をなくし、母親のいない子が一人でも少なくなるよう、活動しています。さらにロータリーは、20億人の子どもをポリオから守ってきました。かつて世界を苦しめていたこの悲惨な病気は、撲滅の寸前にあります。

ロータリアンの長年の活動によって、世界からポリオがなくなる日は遠くはないはずです。また、それぞれの地元地域で、子どもたちに読み書きを教え、貧しい家庭の子どもに本を贈るといった活動もしています。読書を通じて、子どもたちは夢を膨らませます。またその本は、子供たちにとって新しい世界への扉を開くものです。青少年交換では、世界がいかに大きいかを、直に見てもらうことができます。異文化を体験し、視野を広げ、新しい人々との出会いを通じて、平和を推進し、思いやりの心を育てることができます。また、ローターアクト・クラブとインターアクト・クラブを通じて、奉仕の大切さを伝えることができます。

ロータリアンは、子どもや青少年と接しながら、一人ひとりの可能性を広げ、彼らの人生を変えています。彼らがどのような大人になるのか、ロータリーからのプレゼントが彼らの未来にどう影響するのかは、誰にも分かりません。しかし、今、私たちがしていることが、将来、彼らの人生を通じて、社

会に良い影響を与えていく事は確かです。

青少年奉仕は、ロータリーにおいて極めて重要な部分です。未来の世代がロータリーを頼りにしているように、ロータリーも彼らに頼っています。ロータリーは発展し続け、新しいロータリアンを生み出していく必要があります。将来、ロータリーの活動を継承していくのは、ほかでもなく、次世代のロータリアンです。私たちは、熱意や知識や経験を若い世代に引き継ぎますが、同時に、彼らから多くを学ぶことができます。

ロータリーが大切にし、必要としていることの多くは、情熱とか、積極性など、若さを連想させる要素です。若者は、恐れ知らずです。できない理由の言い訳を探す代わりに、やり遂げる方法を見つけようとしています。

ロータリーでは目標を高く掲げていますので、このような姿勢に共感できる方も多いはずです。例えば、私たちが掲げた目標は、数人の子どもにポリオの予防接種をすることではなく、ポリオを世界から撲滅することでした。目標を高く掲げてはじめて、一生懸命にがんばり、限界を押し広げようという意欲が沸くものです。若者たちが持つもう一つの特徴は、柔軟性です。ロータリーが発展するには、変化する世界とともに、私たちも変化する柔軟性を備えなければなりません。新しいアイデアや考え方に心を開くことも必要です。

他人の意見や感想を聞き、批判に耳を傾けることが大切だと、常々、私は申し上げてまいりました。他人からの批判を無視したいと思うのは当然ですが、そこから学ぶことも多いものです。私はビジネスマンでしたので、顧客を無視して成功はできないことを理解しています。クラブや地区の仕組みや運営について問題を指摘する人がおられた場合にも、真剣に耳を傾けるべきだと思っています。

そうした多くの意見に進んで耳を傾け、新会員に積極的に参加してもらえば、一人一人がロータリーの重要な一員であり、ロータリーの未来に対する責任を共有しているという自覚が生まれるでしょう。また変化への対応ができるチャンスにも繋がっていきます。

「世界でよいことをしよう」と言葉で言うだけでなく、実際に行動で示すことが重要です。活動の大小は、問題ではありません。大切なのは、自分た

ちの手で、より良い世界を実現しようと努力することです。また、私たちロータリーがそのような努力をしていることを、人々に知っていただくことです。

これまで私は、世界各地域の訪問を通して深く印象に残った数々のプロジェクトがあります。ケニアでは、親がエイズで亡くなったために、孤児となった子供たちのための施設を見学しました。このような子どもたちはあまりにも多く、施設に入ることのできない子供たちが沢山います。

こうした状況を認識した地元のロータリアンは、援助の手を差し伸べ、他の国のロータリアンと協力して、施設と学校を設けました。このプロジェクトによって、子供たちは路上の生活から救われた上、ベットと食事に加えて、介護や教育を受け、生活技能を習得し、家庭の雰囲気と希望のある未来が与えられたのです。このようなプロジェクトを一つの地元社会が単独で支援することは困難です。しかしロータリーを通じて、いくつかの地域社会が協力すれば、子供たちを助けることができます。

イスラエルでは、世界で最貧国の子供たちに現代的な心臓医療を提供しているロータリーのプロジェクトを知りました。このプロジェクトでは、小児心臓外科医が、アフリカ、ヨーロッパ、中東に赴き現地の医師に手術や集中治療の研修を行っています。さらにこれまで18年間に、1万7千人を超える子供たちがテルアビブにやってき心臓救命手術を受けました。

他の多くのロータリープロジェクト同様、このプロジェクトは、当初の計画よりも多くのことを成し遂げてきました。もちろん当初も心臓疾患を抱える子供たちに現代医療を提供し、長く健康的な人生を与えることを目標としていましたが、目標への過程で、平和への構築にも役だってきました。

手術を受けにやってくる子供たちの半数は、パレスチナ人民居住区や、ヨルダン、イラクから来るアラブ人の子供たちです。彼らはイスラエルを嫌い、恐れるよう教えて育てられましたが、このプロジェクトを通じて家族も含め、それまで見ることのなかった現実を、自分の目で見える機会に恵まれました。

政治のないところで、両サイドの人たちが結び付いたのです。そこにある思いやりの心、コミュニケーション、相互理解、それ以外の方法では実現しなかったでしょう。これこそ、私たち異なる背景を持っている人たちにと

っては、平和を構築するための最善の方法ではないでしょうか。このような行動を通じて、奉仕の心を多くの人々に持って頂き、幸せと希望に満ちた世界を作り、究極的には、世界平和という目標を実現できると私は思います。

ロータリーは長年、私の人生の中心となってまいりました。ロータリーのおかげで、世界を違った視点から見るができるようになりました。ロータリーは、地域社会や国際社会に影響を与えられるだけでなく、私がそうであったように、一人の人間の人生に影響を与えます。ロータリーの真の素晴らしさは、そこにあるのではないのでしょうか。

ロータリーへの入会理由はそれぞれ異なるかもしれませんが、誰かの人生に喜びをもたらすことによって、自分自身が幸せになれるということは、多くのロータリアンにとって、ロータリアンであり続ける理由となっているのではないのでしょうか。これこそが、ロータリーの精神であり、平和な世界を築くために必要な精神であると思います。

私はRI会長になって以来、新しい体験をたくさんさせていただきました。初めてアフリカそして南米の国々を訪れたのをはじめ、インド、モンゴル、フィリピン、ネパール、ヨーロッパ、米国の各都市など、世界各地に参りました。訪れる先々で、貴重な体験をさせていただきました。

アムステルダムでは、証券取引所の開始の鐘を鳴らす榮譽に授かりました。そしてバチカン宮殿では家内の京子と共にローマ法王との面会が許され、温かい温もりのある手で包んで頂きながら、会話をさせていただきました。

また、壊滅的な打撃をもたらしたハリケーン「サンディ」の直後にニューヨークの国連本部を訪れ、モンゴルでは遊牧民のテントの中に入りました。どこへ参りましても、現地の方々から温かい歓迎を受け、自宅でもてなしをして頂いたり、友人のように接していただいたことに、感動いたしました。また、このロータリーのピンを身に付けられることの素晴らしさを、改めて実感いたしました。どこへ行っても、誰に会っても、ロータリーのピンを付けている人を見れば、その人がどういう人なのかが分かります。

どこに住んでいようと、何語を話そうと、どんな服を着ていようと、ロータリーのピンを付けている人なら、信頼することができます。同じ価値観を持ち、腹を割って話し合い、友情を分かち合うことができます。私は新潟県

で生まれ、現在は八潮市に住んでいますが、ロータリアンとしてどこを訪れても、ふるさとを訪れているような気持ちになることができます

それが、ロータリーが私たちに与えてくれる、素晴らしいプレゼントだと思います。現在は、親しい友人たちに囲まれ、母国日本で、ロータリーという心の故郷にいられることを、とても幸せに感じています。

私が小学生のころ、週に一度母と私は、市場まで往復40キロの道を、リヤカーを引いて野菜を売りに行きました。その頃は日本人以外の方々とは、一度もお会いしたことがなく、私が生まれた村が私の全世界でした。ですから、私はいつも、旅することを夢に見ていました。遠くの町や国を夢見ながら、どんな所なのだろうと想像していました。それ以来、幸いにも、頻繁に旅をする機会があり、自分で思いもよらないほど、世界のあちこちを訪れることができました。

しかし、ロータリーでの経験ほど私の視野を広げてくれたものはありません。ロータリアンになるまで、私の目に入っていたものと言えば、仕事、家族、顧客、競争相手など、身近なものばかりでした。旅に出ても、お決まりのものしか見ていませんでした。その背景にあるもの、自分と関わりがないと思うものには、気にも留めていませんでした。しかし、私は事業拡大のために東京から埼玉県八潮に本社を移しました。それから間もなく八潮にロータリー・クラブが出来ることを知りました。これは今から40年前の話です。

当時ロータリーという組織の意味も内容も全く知りませんでしたので、その頃のイメージは駅前のロータリー広場で私たちが何かをするのかと思っていました。ところがまもなく東京から移ってきたばかりの私に「田中さん、ロータリーを作るので貴方も是非参加して下さい」と言われました。その方のお名前は関考友さんという地元の有志でしたのでこの地域のためになる組織や団体ならば進んで参加すべきという考えで了解しました。このような経緯を経て八潮ロータリー・クラブに入会しました。それから1～2年間はあまりなじみずに只出席だけをしていました。その後、ある方が例会に来て、職業奉仕についてお話をして下さったのです。

私は、その日から自分の生きる目的や人生の考え方が少しずつ変わってきました。収入や、売り上げを増やすことや、自分の会社を他の会社よりも

良くし、大きくすることだけでなく、人として、職業人として、もっと良い、もっと高い目的を持って人生を送りたいと思うようになったのです。

そしてそのために、他の人たちの役に立つこと、そして地域社会の発展に少しでも寄与することが、私にとって人生で最も大切なことだと思ようになりました。さらに私は、どんな些細なことでも、地域や世界社会で困っている人々を助けることがいずれは平和につながることに気づきました。

ロータリーは、保健、衛生、食糧、教育などの人々の基本的なニーズに、最も必要とされている地域で応えることができます。そして、友情、つながり、思いやりといった、私たちの心のニーズにも応えることができます。さらに、国や民俗間の友情と寛容を推進することで、ロータリーは、最も伝統的な意味での「平和」を、つまり、互いを理解し合う後押しをしてくれます。

ロータリーの奉仕活動を通じて、私たちは、大きな問題のように見えることでも、力を合わせれば、すぐに解決できることを学んでいます。人を思いやることを学び、自分と違った境遇の人々と知り合うことで、人は皆同じであると理解できます。

ロータリーの奉仕活動を通じて、私たちは、何かを達成しようとするなら、対立より協力を選ぶのが得策であることを知ります。他の人の長所と短所、両方を尊重することを理解できます。そして、どのような人からも必ず得るものがあり、教えられるものがあることを学びます。私は、「超我の奉仕」は単なる標語ではないと考えております。それは、誰の人生をも、さらに豊かで、有意義なものにする、生き方を示していると思います。ロータリアンは、自分よりも、ほかの人のニーズを重視します。

自分のためだけではなく、社会全体のためを考えます。「超我の奉仕」という言葉は、人生で本当に大切なこと、エネルギーを注ぐべきことは何なのかを、私たちに教えてくれる言葉です。そうすることで、より平和な世界の基盤を築くことができると考えます。それは、「平和」をどのように定義するにしても、私たちは奉仕活動を通じて、平和をもっと現実近づけることができるからです。

また、「超我の奉仕」は、人はみな自分だけでは生きていくことができないということを教えてくれます。人との関わりのない人生は、空しく、つまらな

いものですが、家族、地域社会、そして人類全体における自分の役割を常に意識して、つまり、人のために生きること、この世界における自分の役割がはっきりと見えてきます。

私の世代は、戦後に日本で育った最初の世代でした。ですから、私たちが、それほど平和を重視するのは、当たり前かもしれません。私は一介のビジネスマンです。ただ、ビジネスマンとしての長年の経験から、私は、事業を成功させるには、顧客の満足を追求する以外にないという結論に達しました。顧客に喜んでもらえれば、事業も成長します。そうすれば私自身も幸せになれる。しかし、それは事業が成功しているからだけではなく、人を幸せにしてあげることができたという認識があるからです。

また、広島、ベルリン、ホノルルで開催させて頂いた3回のロータリー世界平和フォーラムの推進にも、ご協力を頂き感謝いたします。今から22年前、1994-95年度私が地区ガバナーだった年度、私の地区で、ロータリー財団への寄付額を世界一にすることを、最優先目標といたしました。

この目標を達成できた時、私たちの地区のロータリアンの努力を心から誇りに思い、本当にありがたく感じました。何よりも嬉しかったことは、たくさん集まった寄付で、世界でたくさん、良いことができるということでした。ここにご出席の皆さまは、ロータリー財団へのご支援を通じて、「世界でよいことをしよう」という財団のモットーを実践されています。

「財団は、ロータリーという組織を動かすエンジンである」と、よく表現されます。これは、ロータリアンが活動に励み、財団が活動のための燃料を提供するという、国際ロータリーと、ロータリー財団の関係を、的確に表しています。財団のおかげで、ロータリアンはさらに多くの活動を行うことができます。しかし、財団がリソースを維持し、発展できるのは、ロータリアンからの弛みない支援があるからです。

ロータリー財団への寄付は、賢明な投資です。なぜなら、寄付したお金が

有意義な活動に生かされるからです。寄付が適切に活用されると信じて、お金を託すことができます。

財団の力を借りて、ロータリーは、多大な成果をもたらす国際的なネットワークへと発展してまいりました。強い財団があるからこそ、ポリオ・プラスという壮大なプロジェクトが開始できました。皆さまご存知のように、世界各地のロータリアンの懸命な活動とご支援により、ポリオはあと少しで撲滅できるところまで来ています。

1985年以来ロータリーはポリオ撲滅の最先端に立ち、世界のロータリアンの力強いご支援のもとに戦って参りました。そして間もなく今世紀における快挙を成し遂げようとしていると同時に、私たちはロータリアンであることを誇りに思っています。

大規模な奉仕プロジェクトを行おうとするとき、その資金が確保できるのは、財団があるからです。ロータリー財団は、どのクラブにも平等に機会を与えてくれます。資金がたくさんあるところではなく、活動が一番必要とされるところにリソースを提供しながら、世界中の人々に、健康、読み書きの力、そして希望を与えてきました。

ロータリーは、財団を通じて、ロータリー平和センターを設立しました。平和センターは、平和を推進し、地域社会や国際舞台で活躍できるリーダーを育成することを目的としております。毎年、100人近い平和フェローが、奨学金を受けて、世界6カ所のロータリー平和センターで、修士号または専門能力開発の修了証を取得します。

平和フェローは、将来、国際協力や、平和、紛争解決の分野で活躍できるリーダーとなることが求められています。このプログラムは、私にとって、とても重要なものです。このプログラムの重要性を信じ、力強くサポートしてくださっている方々に、心からお礼申し上げます。

皆さまがロータリー財団、そして世界のために注いでおられる熱意とご尽力に、心より感謝いたします。皆さまは、財団のモットーが表すとおり、「世界でよいこと」を行い、ロータリーという組織に必要な燃料を与えて下さっています。皆さまのお陰で、ポリオのない世界、平和な世界に、また一歩近づくことができるでしょう。

ロータリーのビジネスは、利益の追求ではなく、平和の追求です。ですから私たちにとって、報酬はお金を手に入れることではなく、自分の努力によってより良い、より平和な世界が実現するのを見届けることにあります。

皆さま2012-2013年度、「奉仕を通じて平和を」を、ロータリー活動の最重点としていただき誠にありがとうございました。また、どのように定義するにしても、「平和」がロータリーにとって究極の、そして実現可能な目標であることをご理解いただきました。

平和は、協定や、政府や、大胆な闘争だけで達成するものではなく、日常の簡単な方法の積み重ねによって成し遂げるものです。2012-2013年度、世界の地区、3万4千以上のクラブと120万以上の会員が一年間、「奉仕を通じて平和を」の精神をもって、ロータリーの究極の目標である平和な世界に向けて適進していただいたことに心から感謝申し上げますと共に八潮みらいロータリー・クラブの皆様のますますのご活躍、そしてクラブの更なるご発展をご祈念申し上げ私のメッセージに代えさせていただきます。ご清聴有難うございました。